

## 長期不妊治療患者へのサポートについての検討 ～治療終了した元患者の体験談とグループディスカッションを実施して～

医療法人三慧会 IVF 大阪クリニック  
○小松原千暁、田邊加代子

### I. 緒言

A 院では、2 年以上の不妊治療歴がある患者を長期不妊治療患者と定義している。その中には、治療終了の時期を窺いながら治療を受けている患者も少なくない。今回、長期不妊治療患者を対象に院内で治療終了した元患者の体験談を聞く茶話会を行い、参加者へアンケート調査を実施し、その結果を踏まえ患者介入の方法について検討したので報告する。

### II. 実践内容

開催日時：2013 年 11 月 21 日（土）13：30～15：30。参加対象者：治療歴が 2 年以上の長期不妊治療中もしくは治療終了直後の方。内容：治療終了した元患者の体験談を聞き、その後にグループディスカッションを行う。告知方法：開催 1 か月前よりチラシにて院内とホームページにて紹介、対象患者へチラシの配布を行った。アンケート調査：茶話会終了後に感想や二人の生活を選択した場合の不安の有無とその内容などについて、回答選択式と自由記述式にて行い当日回収した。倫理的配慮として、アンケートの趣旨を口頭と書面にて説明し、匿名性の確保のため無記名、任意参加とした。

### III. 結果

参加者は治療中 11 組 12 名、治療終了後 5 組 6 名、平均年齢、妻 42.9 歳（16 名）、夫 45.5 歳（2 名）、平均治療期間 5 年 9 ヶ月、アンケート回収率 100%であった。体験談について「良かった」が 15 名（83.3%）、「普通」が 3 名（16.7%）であった。体験談の感想は「自分の納得のいくまで治療を頑張りたい」「現在の自分の存在を受容できそう」「治療終了を迎える事を肯定的に捉えられた」等であった。二人だけの生活で不安は「ある」が 88.8%（16 名）、「ない」が 11.1%（2 名）、内容は「老後やもし病気になったら」「治療終了を後悔しそう」「不妊治療後の身体への影響」等であった。グループディスカッションでは、治療中の気持ちを振り返り流涙する方も多く「自分だけでなく、皆も頑張っている」「治療に取り組んだ自分達を褒めたい」「治療終了の勇気がない」等の意見があった。

### IV. 考察

体験談を聞くことで、自己の受容や治療終了を肯定的に捉えるなど参加者の意識の変化があった。また、治療終了が視野にあるからこそ自分で納得できるプロセスにしようという新たな目標を得る機会となっていた。更に、グループディスカッションにて他者の考えや気持ちを聞くことで、患者同士の信頼関係が生まれ、孤独感から解放されたようであった。しかし、その反面、治療終了後の後悔や身体面への影響など、予期不安が表出され、心理的な葛藤があることが示唆された。

### V. 今後の課題

今後も茶話会にて患者の悩みや不安を表出する機会を提供し、心理的葛藤に寄り添いながら肯定的な価値観への転換を継続して支援する必要がある。また、予期不安軽減の為に、心理面や健康管理に関して、パンフレットなどで情報提供できる環境を整えていきたい。